

安城市新水道ビジョン(案)

1. 新水道ビジョン策定の趣旨と背景

1) 策定の趣旨

- 将来にわたって安定的に水道事業を継続していくためには、中長期的視点を踏まえた戦略的な水道事業の計画立案が必要であり、また住民に対して事業の安定性や持続性を示していく責任があることから、水道事業のマスタープランとして位置付けられる「水道事業ビジョン」を策定します。

2) 策定の背景

- 全国の水道事業者において、事業環境の変化への対応が課題となっていることから、厚生労働省では、平成 25 年に「新水道ビジョン」、平成 26 年に「水道事業ビジョン作成の手引き」を公表し、各水道事業者に対して「水道事業ビジョン」の策定を推奨しています。
- 安城市水道事業では、高度経済成長期に整備した施設が更新時期を迎えること、使用者の節水意識の向上などによる水需要の伸び悩みとそれに伴う料金収入の増加が期待できないこと等、経営環境が厳しくなることが予想されています。
- 平成 19 年度に策定した「安城市水道ビジョン」が計画期間の 10 年を経過することから、様々な課題への対応などのため、2027 年度を目標年度として改定します。

2. 概況

1) 水需要の現況及び予測

- 将来的な給水人口は増加傾向にあるものと予測されていますが、市民の節水意識の向上などから一人当たりの使用水量が横ばいから減少傾向を示していること、大口需要者の水道から地下水への転換などから、将来的な水需要が大きく増加することは望めないものと予測されます。

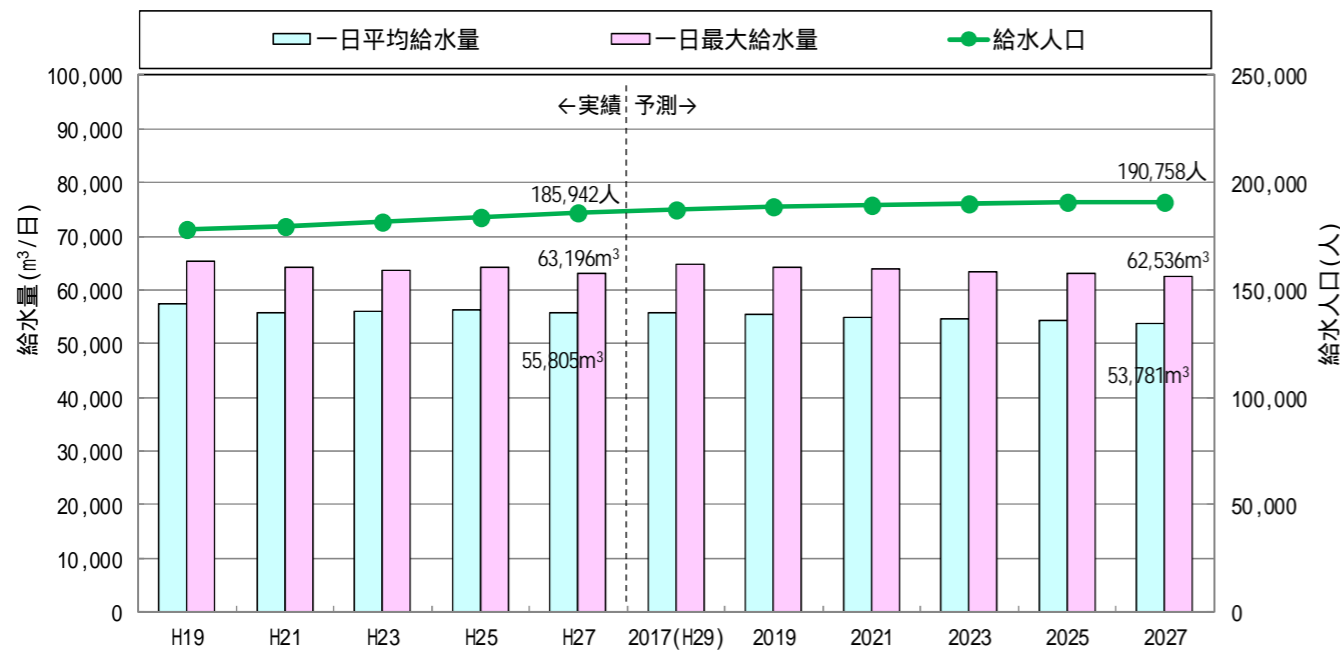


図 1 給水人口・給水量の実績値及び予測値

2) 水源及び水道施設の現況

- 現状の取水量は、自己水(地下水)が全体の約 30%を占め、残りは県水受水となっています。
- 北部・南部浄水場及び中部配水場の 3 施設により市内全域に配水しています。

3. 現況評価及び課題の抽出

1) 課題の抽出にあたっての視点

- 前回水道ビジョンの進捗状況を確認し、水道の理想像を実現するため、厚生労働省が示す「新水道ビジョン」と同じく、「持続」、「安全」、「強靱」の 3 つの視点から、業務指標、市民アンケート調査結果について評価を行い、安城市水道事業における課題を抽出しました。

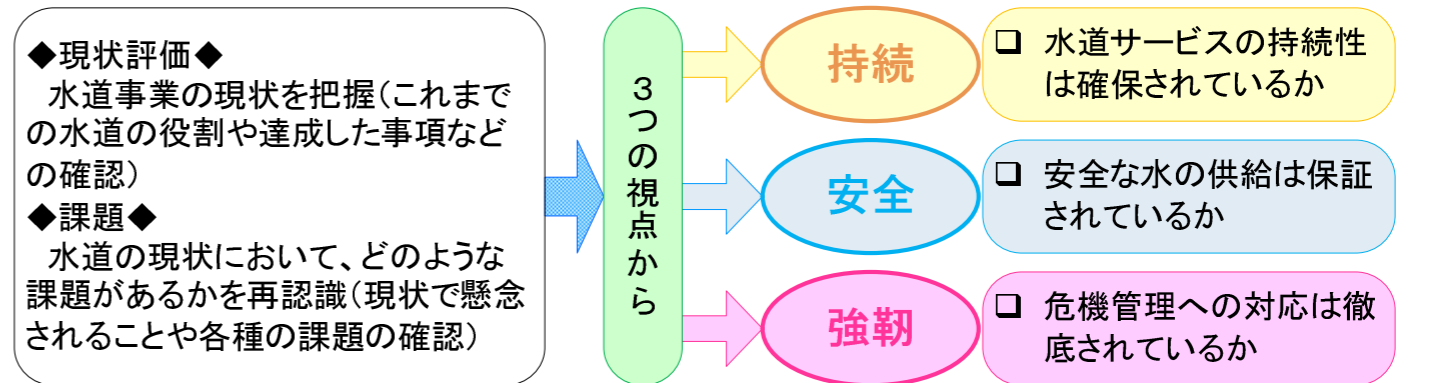


図 2 課題の抽出にあたっての視点

2) 安城市水道事業における課題

(1) 「持続」に関する課題

経営基盤の強化

- 事業の効率化を図り、需要構造の変化に応じた中長期的な財政計画の検討が必要です。
- 将来の水需要予測を勘案し適正な施設規模による再構築の検討が必要です。

老朽化対策の推進

- 今後増加する老朽化施設及び管路について、長期的視点での維持管理計画や財政収支見通しに基づく施設の整備計画にそった更新が必要です。

広域連携の推進と技術の継承

- 民間企業への委託及び水道事業者同士の広域的な連携による事業の効率化の検討など経営の合理化が必要です。
- 人材育成や技術継承がされる体制について検討が必要です。

水道サービスの向上

- 市民が水道事業に対する理解を深めるため、水道事業者の取り組み、水道水質の情報、災害時の体制等の情報をわかりやすく提供し、住民ニーズの把握が必要です。
- ホームページ等の充実により、応急給水拠点など災害時の対応等について多言語による情報提供が必要です。

(2) 「安全」に関する課題

水源及び水質の安全性確保の充実

- 良質な自己水源の確保に努めるとともに、県営水道や他の受水市町と連携して、長期的に安全で安定した県営水道水源の保全についても検討が必要です。
- より高度な水道水質の安全性確保のために水質監視体制の充実や残留塩素の適正な管理について検討が必要です。
- 将来の事業環境を考慮した浄水処理方法の検討が必要です。

(3) 「強靱」に関する課題

水道施設の耐震化

- 各水道施設（構造物、設備）の重要度を考慮した耐震化の実践が必要です。
- 地震の経験等を踏まえ、部分的に被害を受けても断水等の影響を最小限にとどめるため、復旧時間等を勘案した水道施設の耐震化計画の策定や、耐震化の推進が必要です。

危機管理体制の強化

- 災害や事故に対応できる施設を整備し、緊急時の対応マニュアル等の整備並びに広域的バックアップ体制の整備など危機管理体制の強化について検討が必要です。

4. 安城市水道事業の将来像

1) 基本理念と基本方針

基本理念

未来につづく安全・安心な水をめざして

～ 健やかで 幸せな生活をささえ続ける 安城の水～

基本方針

- 「暮らしを支え、信頼され続ける水道」 持続
- 「安全で安心して使える水道」 安全
- 「災害に強く、安定供給ができる水道」 強靱

2) 施策目標

- これらの基本方針を実現するために、抽出した課題をそのまま、施策目標として設定しました。

5. 施策の展開

- 基本理念及び基本方針を踏まえて設定した施策目標ごとに主要施策を整理しました。
- 各主要施策については、具体的な実施施策と管理指標等を設定し、実施します。そして進捗管理は、業務指標の中間目標値（2022年）及び目標値（2027年）を定め、行っていきます。

基本理念	基本方針	施策目標	主要施策
未来につづく安全・安心な水をめざして （健やかで 幸せな生活をささえ続ける 安城の水）	持続 暮らしを支え、信頼され続ける水道	経営基盤の強化	アセットマネジメントの活用及び経営戦略の策定・推進
			適正な施設規模の検討
			業務の効率化の推進
		老朽化対策の推進	老朽管路の計画的な更新【前回ビジョンからの継続施策】
			老朽化施設の更新【前回ビジョンからの継続施策】
		広域連携の推進と技術の継承	県営水道及び周辺事業者との広域連携の検討
	民間活用の検討【前回ビジョンからの継続施策】		
	技術者の確保・育成と技術の継承【前回ビジョンからの継続施策】		
	水道サービスの向上	情報公開と広報活動の充実【前回ビジョンからの継続施策】	
		利用者サービスの向上【前回ビジョンからの継続施策】	
	安全 安全で安心して使える水道	水源及び水質の安全性確保の充実	水質監視体制の充実【前回ビジョンからの継続施策】
			水源計画及び浄水処理方法の検討
残留塩素管理の継続【前回ビジョンからの継続施策】			
水安全計画の適切な運用			
小規模受水槽管理への積極的な関与【前回ビジョンからの継続施策】			
強靱 災害に強く、安定供給ができる水道	水道施設の耐震化	基幹施設の耐震化【前回ビジョンからの継続施策】	
		管路の耐震化【前回ビジョンからの継続施策】	
	危機管理体制の強化	配水区域ブロック化の推進【前回ビジョンからの継続施策】	
		バックアップ対策の推進【前回ビジョンからの継続施策】	
		危機管理対策の推進	
		応急給水体制・復旧体制の充実【前回ビジョンからの継続施策】	
県営水道及び周辺事業者との連携の強化			

6. フォローアップ

- PDCAサイクルによって管理し、継続的な改善を図ります。
- 事業の進捗状況は、ホームページや広報誌に掲載するなど、積極的に情報公開します。
- 本ビジョンは、社会・経済情勢の変化を踏まえ、概ね5年程度で見直します。